

びわこの 考湖学

9

橋がない：家康は水路で上洛

るのです。一方、例外的に大人数の移動にあたって水路を用いた人物が幾人かいました。北畠顕家、斯波義寛、徳川家康らです。

建武3(1336)年に足利尊氏を破った北畠顕家は、3日間かけて5000人の軍勢を700艘余り

の水路業者を動員して、矢橋―大津ルート

の水路で移動したので。近江の海 湊は八十あり

り」と『万葉集』にもうたわれたように、琵琶湖沿いに設けられた陸路の湖岸側には多くの「湊」がありま

た。ただし、歴史の流れをみても明らかのように、それぞれの地域の領主との結びつきが強い小規模な港が多

く、全体として統率されることのない傾向にあった

です。さらに、恵美押勝の乱の際に押勝が乗っていたのは

妻子3、4人しか乗っていないような小舟でした。木曾義仲が山田・矢橋から東

坂本へ渡った船の規模は明らかではありませんが、決して大きくはなかったとい

います。北畠顕家ら5000騎は700余艘、斯波義寛ら2000人は140艘、山名

豊時ら3000人は19艘、山名政之ら3000人は18艘で渡っていますので、7人か

ら最大でも15人乗り程度であったことがうかがわれる

のです。琵琶湖の水運を担っていたのがこのような小舟ばかりだったとすれば、湖上を舞台に軍事的な攻防が繰り

広げられたという風景は見えづらく、軍事利用はせい

ぜい、人馬の輸送に留まるものであったことが分かります。

加えて、多くの小規模港に影響を及ぼしているのが

分散した小勢力とあれば、大人数の移動にあたって多

くの船を一齐に動員するた

めに、政治的、経済的な困難が存在するのは明らか

です。従って、ゲリラ的な戦いを除く本格的な軍事的行動の

際には、湖上交通(水路)に依存しない在り方が選択

されたこととみてよいでしょう。

(滋賀県文化財保護協会 畑中英)

瀬田の唐橋 その2

と、天禄元(970)年、長享年間(1487)1

藤原道綱の母が石山寺参詣の僧侶や一条冬良、近衛

尚道らが、六角征伐で鈎

(現在の栗東市)に置かれ

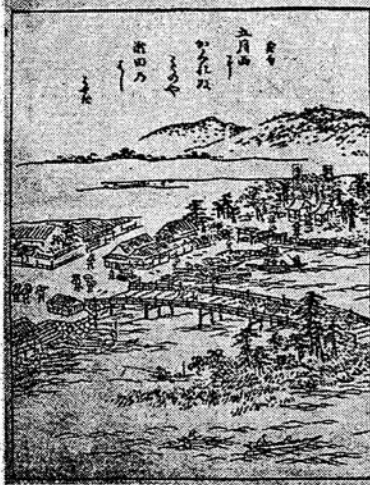
た將軍、足利義尚の陣へと

往來する際、大津―矢橋・山田の水路を用いていたこ

とが知られています。このように、瀬田橋を経由しない

往來の方法がとられてい

るのです。



江戸時代の『伊勢参宮名所図絵』(草津市立草津宿街道交流館所蔵)に描かれた瀬田の唐橋



江戸時代の『伊勢参宮名所図絵』(草津市立草津宿街道交流館所蔵)に描かれた瀬田の唐橋

た。ただし、歴史の流れをみても明らかのように、それぞれの地域の領主との結びつきが強い小規模な港が多

く、全体として統率されることのない傾向にあった

です。さらに、恵美押勝の乱の際に押勝が乗っていたのは